

2015年6月19日
日本自動車輸入組合（JAIA）

燃費測定への WLTP 採用に関する意見

国際基準である WLTP 採用をする際に、考慮すべき基本的な考え方は以下のとおりである。

- WLTP を採用したとしても、JC08 ベースで決められた燃費基準への達成が困難になるような方法は取らないこと。
- 国際的に納得できる採用方法であり、かつ、認証試験の負荷は出来るだけ減らすこと。

以上の基本的な考え方に基づく JAIA の要望は以下の 2 点である。

1. 燃費試験に対する WLTP の義務づけの開始は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく「製造事業者等の判断基準」において、基準エネルギー消費効率を WLTP に基づいて定める（ポスト平成 32 年度燃費基準）時期と調和させて頂きたい。
2. 現状の法令に基づくならば、燃費表示は JC08 燃費値を使用することが義務付けられていることから、上記 1. 項よりも早期に燃費試験として WLTP を任意ベースで採用するケースにおいては、JC08 燃費測定は不可欠となり、燃費試験においては WLTP ベースと JC08 ベースのダブルテストが必要となる。また、排出ガス試験を WLTP ベースで測定することが義務化される将来においても、燃費表示について JC08 燃費値が義務付けされた場合には、引き続きダブルテストは必須となり、WLTP 導入当初は認証試験の負荷が大幅に増大することとなる。従って、この負荷の最小化を図る燃費の表示の切り替えに係わる検討を要望する。

また、現在のデータに基づいた換算の困難性は理解するものの、将来的に十分なデータが揃った時点の課題として、WLTP 燃費値から JC08 燃費値に高精度で換算が行える換算式をオプションとして活用出来るようにして頂きたい。なお、現存のデータ数に基づいて換算を行うならば、精度が悪い換算結果を招く危険性があることは承知しており、現状において直ちに換算式を設定することを望んでいるものではない。換算式は車両の特性を加味した高い精度の換算が可能で、かつ、製造事業者等と省庁間で合意されたものであるべきで、それが可能となる十分なデータが揃った時点における課題として取り組んで頂きたい。

<参考>

EU では WLTP 採用の際には NEDC ベースの目標値（2020 年の CO₂ 排出規制目標 95 g/km）に対する換算を行うことが EU 委員会から発表されており、上記 2. 要望は EU と同等の措置をお願いするものである。